





凡和歌乃讀方を教へし所ありし  
 勲腦式等世に流布せし物も多し  
 少くも之を難見乃初学を遍く窺ひ  
 元乃多ありし故に之を握教せしは古  
 賢に庭訓の源千鳥法ありし物なり  
 沖津玉藻乃より大まかに似り仍諸  
 抄を秘筆し師統等法ありしを全  
 部七冊初等和歌式と号し本より

昭和五十一年五月、飯島  
 書店にて求む。

估価五千円

村井順

音聲入の節もどしつゝ為たまきつたこと  
 ありゆけしむる人乃ちたつた  
 とえむこや

うしろむらぶりのり

初学和弄式目録

○一巻

一歌と可かた事

一歌みかど保く可入事

一一字歌といふ事

一五字歌といふ事

一歌とまらり可決事

一歌と初五文字みまなり決事

一歌とまらりといふ事

一歌とまらせて決事

一歌とみかたゆづりて決事

一歌とまらりゆづりて決事

一歌とまらりといふ事

一歌のゆづりといふ事

○五巻

一初弄とらむのり

一返弄のり

一兼歌弄のり

一和弄のり

一初弄字のり

一弄と決り跡のり

一弄と決り跡のり

一初弄乃初のり

○月五巻至七巻

三代集詞寄

一歌と云ふはなる事

一雜歌乃事

一雜文の歌の事

一傍歌乃事

一片歌の事

一落歌乃事

一勢りらく流れぬ歌の事

一實字の事

一虚字の事

○月二卷至三卷

一歌よおぬおぬ 并 四季の雜乃歌流方の事

一名はの奇流方の事

○七卷

一和奇詞諸抄註釋抜萃

物学和奇式

卷一

題之讀方

○歌と云ふはなる事

歌と云はるは是歌の文字に申すは實字あり

虚字あり 實字虚字の事 或は歌のんこととてよまらして流

歌ありまらしてめ 或は 或は其歌のなをなす

あり 或は 或は各んこととて一自然の事

は 或は 或は各んこととて一これとての事

○歌と云ふはなる事

歌と云はるは是歌の文字に申すは實字あり

虚字あり 實字虚字の事 或は歌のんこととてよまらして流

歌ありまらしてめ 或は 或は其歌のなをなす

あり 或は 或は各んこととて一自然の事

は 或は 或は各んこととて一これとての事

○歌と云ふはなる事

歌と云はるは是歌の文字に申すは實字あり

虚字あり 實字虚字の事 或は歌のんこととてよまらして流

歌ありまらしてめ 或は 或は其歌のなをなす

あり 或は 或は各んこととて一自然の事

は 或は 或は各んこととて一これとての事

千枝

通叙

後成

新古今

日

新古今

一庭訓抄後集云曉夕とある人歌を曉夕とよめるは  
 可憐夕乃字又入おの曉雲のつてなと後づー自  
 解後集と云づーと云々これ又歌よるんかよとよとの  
 一庭訓抄後集云曉夕とある人歌を曉夕とよめるは  
 可憐夕乃字又入おの曉雲のつてなと後づー自  
 解後集と云づーと云々これ又歌よるんかよとよとの

一庭訓抄後集云曉夕とある人歌を曉夕とよめるは  
 可憐夕乃字又入おの曉雲のつてなと後づー自  
 解後集と云づーと云々これ又歌よるんかよとよとの  
 一庭訓抄後集云曉夕とある人歌を曉夕とよめるは  
 可憐夕乃字又入おの曉雲のつてなと後づー自  
 解後集と云づーと云々これ又歌よるんかよとよとの

一庭訓抄後集云曉夕とある人歌を曉夕とよめるは  
 可憐夕乃字又入おの曉雲のつてなと後づー自  
 解後集と云づーと云々これ又歌よるんかよとよとの  
 一庭訓抄後集云曉夕とある人歌を曉夕とよめるは  
 可憐夕乃字又入おの曉雲のつてなと後づー自  
 解後集と云づーと云々これ又歌よるんかよとよとの

三つ秘訣 作 云 秘鹿とありん鹿と秘をこと秘し社

此の鹿乃じの秘鹿鹿とありん鹿夕時雨を夕と

れ鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕と

と云ふこれ秘鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕と

と云ふこれ秘鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕と

と云ふこれ秘鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕と

と云ふこれ秘鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕と

と云ふこれ秘鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕と

と云ふこれ秘鹿夕とありん鹿夕とありん鹿夕と

秘鹿

秘鹿

野出

野出

めれつられをかく秘のふおむつひのあつとつ海

嚙鹿 秘拾遺 老氏

つれかこの例をかく秘のふおむつひのあつとつ海

夕時雨 秘拾遺 友原徳忠

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

秘のふおむつひのあつとつ海

拾遺集

君といふ物二字歌は法をよむよひし歌を下りよむ入  
ししと云法とよまふ花なつばら白鹿の  
いりまひく思はれさする月か歌無と云ふれつ雲  
はほつりかきさるる歌と云れと云ふも  
まゝで下りよむ歌も花かし歌をあらうらなれ  
歌ゆゑと云ふ歌と云ふと云ふこれハ生歌  
うまゝの歌と云ふ歌と云ふ

一 近來風神抄後醍醐天皇云文字もどく歌くやとくある歌  
と云ふやうありはるる歌と云ふと云ふ文字もどく  
かゝやとくある歌と云ふ歌かとのまゝと云ふ  
つとくは法と云ふ歌かど文字もどく歌れ其歌  
らりまゝと云ふ歌と云ふいりらと云ふ  
らと云ふと云ふ清浦歌たのまゝと云ふ  
一字歌と云ふ  
つとくは法と云ふ歌と云ふ

○法歌と云ふ事

はか一字歌のよむやあるや入れやひありと云ふ  
ひとび歌と云ふ歌の文字三字四字五字かど  
あるやあるは初巻霞雪申子百かと云ふ歌  
これ初巻と云ふしひひ目と云ふしひひ目と云ふ  
此歌乃文字の中より虚字実字ひひと云ふありそれを  
よくくはれて法と云ふと云ふいりらと云ふ其歌  
乃法と云ふいりらと云ふと云ふいりらと云ふ其歌乃法  
と云ふ法と云ふと云ふ法と云ふと云ふ法と云ふ  
或いは法と云ふと云ふ法と云ふと云ふ法と云ふ  
と云ふ法と云ふと云ふ法と云ふと云ふ法と云ふ  
と云ふ法と云ふと云ふ法と云ふと云ふ法と云ふ

○歌をよむら可法事 是かの二字三字四字あり歌をよむと云ふ  
と云ふ下りよむと云ふと云ふ  
一 若極身同庭詞歌と云ふ三字四字より後ハ歌乃字を甲乙  
一 乙と云ふと云ふ法歌をよむと云ふと云ふと云ふと云ふ  
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

金と字はよしかん<sup>と</sup>歌集とありいふは野鳥のいふは  
乃福外と字は又歌の字と甲乙とまてふるといひ

一 所伝の歌乃乃字とふるは皆流して下のよまを  
かきおきとてかりこももつければいふこと

是ゆきある人の家外歌とて歌よて山望乃福外  
と外外と流ておまかまき流てつとも定て人の

りやうらんといふはたれかたされと流てらん  
つかりといへりといふはかたのこまき流ておま

の家外歌とて歌よてよまといふは  
の家外歌 後拾遺

○歌集五文字を型下とん平

○歌集五文字を型下とん平 かりよ字といふは字といふ歌と  
よりて物よりと書乃乃とて是かいつる歌とこれいふ  
こゝぬと也

一 案極中納言相語 <sup>定意</sup> 云歌の初乃乃たりり、後乃乃  
はうりよて其ともわこりり、のまを多くぬらゆといふか  
とて是よりハ後案極中納言 <sup>おま</sup> 乃乃とていふこと

乃乃とて流るる人ありしは乃乃一は乃乃とて流るる  
とぬらしてありかんとて流るるもどらる中ありしと云  
初乃乃乃りあひ流る乃乃乃りよま其ともわこりり

とぬらしてハ歌の文字と初乃りよひつらてはよる  
より下ハ其歌よ乃乃乃りいふことといひ又ハ歌の字を流  
の乃乃乃りよひては乃乃乃りいふことといひ乃乃乃り  
相語とていふは乃乃乃り字ハ三乃乃り其ともわこりり

とてあつらひては乃乃乃り字ハ三乃乃り其ともわこりり  
とてあつらひては乃乃乃り字ハ三乃乃り其ともわこりり  
とてあつらひては乃乃乃り字ハ三乃乃り其ともわこりり



古今文字はあつたてのまゝにうゑるゝ

一八雲に竹竹 之歌のちりきつるゝ

は清らにもとられど松の院百その歌かどハ一字つゝ

てあれはあゝもれん歌歌のたぐはらんは終りいふ

とんもくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よりハ清らとんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

これと歌及まをれりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

也初と文字はあつたてのまゝにうゑるゝ

新古今 設内門院土備

花も又さるれんまに思ひのまゝにうゑるゝ

月とれといふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

推定

花も又さるれんまに思ひのまゝにうゑるゝ

月とれといふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花も又さるれんまに思ひのまゝにうゑるゝ

月とれといふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花も又さるれんまに思ひのまゝにうゑるゝ

月とれといふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花も又さるれんまに思ひのまゝにうゑるゝ

月とれといふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花も又さるれんまに思ひのまゝにうゑるゝ

月とれといふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花も又さるれんまに思ひのまゝにうゑるゝ

月とれといふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

作りさしとて歌をよめるに解の大車はめとありとこれ  
 の歌のなかへて落歌まかへるありとされと文字解  
 歌にさしとていひつらへるれはまかへるありと  
 くはめとてまかへるありとされと文字解とて訓  
 りとていひ

一 和弄用意之抄 云の和弄待の考れとる歌をえとる和弄待と  
 つの和弄待無九不決之抄 心はありとありかたがらとて決  
 又をし道一かして和字以之准之抄 古辞門遠山雲  
 和字も外字もなかりて和字かへる和字の志と云  
 又同歌と云教房

さしてさしてつひく和字とて和字の和字とて和  
 遠の字以之可之抄 和字も和字も和字も和字も  
 くのとて可ぬとてさして和字も和字も和字も  
 とてさして和字も和字も和字も和字も和字も  
 とてさして和字も和字も和字も和字も和字も

一 収用抄基傳 云歌をよめるに解の大車はめとありとこれ  
 歌も必法とていひつらへるれはまかへるありと  
 して後とて文字の志とていひつらへるれはまかへるありと  
 して後とて文字の志とていひつらへるれはまかへるありと  
 して後とて文字の志とていひつらへるれはまかへるありと  
 して後とて文字の志とていひつらへるれはまかへるありと

和字も外字もなかりて和字かへる和字の志と云  
 又同歌と云教房  
 和字も外字もなかりて和字かへる和字の志と云  
 又同歌と云教房

和字も外字もなかりて和字かへる和字の志と云  
 又同歌と云教房

静夜歌

淡古介

太上天皇

ちかせせむしの標乃むらり露乃こへりうらせれさ  
ちかせせむしの標乃むらり露乃こへりうらせれさ  
得一箇 白川五七首

郭公早

淡古介

匡房

早苗多

曰

為世

五月雨久

伏見院所

信製

くわこ五月の日夜かろくはとあまの雨の中よもはらる  
五月のひらきかろくはとあまの雨の中よもはらる  
草花若秋 今世 源流法師

いそねどもろくろあろ

二星適逢

家集

信成

七夕の舟終くもそくしなととせよひとこころ  
一年ふらりころとつらよ適逢んあろ  
遠近秋風 玉系 拾平初言兼季

吹ふり好空ひく松丸の形もあろとつら  
外よひくよを乃字とせむの松よ近さんあろ  
第庭露後 新古今 基信

麻聲兩方 千秋 芝野法師  
あまの小花う原をり程の麻の糸をこもりてさくろ  
鹿の糸をこもりてす水とひよあ方よそひんあろ

空雲終跡 新古今 定夜  
あまのやまのひらりあろとつらよあろとつらよあろ

やとよ木のハの下々、赤玉のうらぐらとら、終終らんあり

電凍源 玉葉 祝意法伴

くまのふちあまをてうらふいれり後やるもこしなん

電凍群山 新法古今 お大納言頼繼

はくらくいふあふいとあてあさるちれくけりかゆらえれ

初戀 千茂 肥後

あふりうらゝぬき世代かこもや意乃あふんかふん

忍久慈 後法橋 小宰相

人忘れぬちよふあ年舟のいらとがれは程そつれかこ

見慈 法古今 定家

うつしちまれば乃まのぬよりりおもはさええいひかて

はくの酒のま乃名とらうらとまきうらとと使んよとら  
かてくまのあさ

忍慈 新古今 意家

んそとけあまを福と場の松乃とま意乃ゆかこれ乃え

「我やと」は場のいふあふんかこもあふんもあしとやうは

いこそ乃きうらうらあふんかこもあふんもあしとやうは

忍慈 新古今 日

くまのふちあまをてうらふいれり後やるもこしなん

電凍群山 新法古今 お大納言頼繼

待慈 玉葉 たねお定家

どのいふ偽をうらたれあふんかこもあふんもあしとやうは

偽なうらたれあふんかこもあふんもあしとやうは

辨志

新千載

海東氏

うやうやとしても経る天門のれい... 七葉の年よ一葉の如くよまてて辨心とりのせり

逐日辨志

千載

後

山家送年

新古今

新古今

まいてくま本れ... 今そり一初ハま... 本をりて海山乃どく... くらりくらり

遠鏡幽

新初撰

入る三不叙王

初撰のありし乃... くらりくらり

竹有佳色

新千載

竹有佳色

巨翁やせそ竹乃... くらりくらり

歌とあわせて

一とく歌乃物と... くらりくらり

吾物とくくらり

一候月抄云その... 八雲台傳云歌... 動物とて其... 乃中入歌乃字... くらりくらり

神入るるを清くしかり證哥

落葉浮水

新古今

左葉集

いづれもまてとくらん水とわらうりやくと移乃あしそ  
品今眼界に落葉乃浮ひくらとてとてとてとてとてとてとて  
ちてあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがり  
まといひらちくらせいらぐりあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがり  
紫とてとてとて

月影水

新古今

大御之傳佳

いひ人もあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがり  
あまのつらがりあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがり  
侍時鳥  
五月四日壽合

五月四日壽合  
今あまのつらがりあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがり

一思同質注 愚問の法成をたぬ  
賢注の法成をたぬ  
あまのつらがりあまのつらがりあまのつらがりあまのつらがり

捕乃絲と妙とらんかど清くハ歌乃文字なりとてとてとて  
ハとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
らとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
花浦の氣立 詩壽合 生衣

おとこれ日一強くとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
私いふ強くとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
備故これ乃詩也いとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
一二句よしのあまのつらがり二三句よしのあまのつらがり  
とてとて

お。深。深。雨

目吉壽合

日

ありてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
神のまかりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

カキ

たつれも新あつねを初めちりてそのおとせはむらじ  
かたよしのまはらして初めはむらじとせむらじ  
歌とが後よはづりて後す

もかひーちりいひあふむらじとせむらじとせむらじ  
と感後かきむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
とせむらじ

一近來凡新むむむむ歌とがはむらじとせむらじとせむらじ  
後をとりてむらじとせむらじとせむらじとせむらじ

條朝の物意 千秋

後成

とひもむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
條朝の物とむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
その朝のそんてむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
とひも実字とせむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
ゆづりてむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
むらじのつむらじとせむらじとせむらじとせむらじ

あふむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
後をとりてむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
とひも実字とせむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
ゆづりてむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
むらじのつむらじとせむらじとせむらじとせむらじ

等思あ人恋 家集

新道法師

のの子乃いこの川ももあふむらじとせむらじとせむらじ  
等思あ人とせむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
あつその男れむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
づれおとせむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
乃とせむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
らあそむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
らあそむらじとせむらじとせむらじとせむらじ  
らあそむらじとせむらじとせむらじとせむらじ







經文乃歌の事

經ハ歌ニ非ズシテハ歌ト云フモノナリ  
然レドモ經ハ歌ト云フモノナリ  
經ハ歌ニ非ズシテハ歌ト云フモノナリ  
然レドモ經ハ歌ト云フモノナリ

一是同聲注云

法苑珠林乃云此乃方清也  
又初云經者も作例あり也  
又初云經者も作例あり也  
又初云經者も作例あり也  
又初云經者も作例あり也

同隨喜功德云

最後第九十開一偈隨喜  
谷川乃云此の末と云人も  
これハ同聲注云  
此ハ同聲注云

同安未行云

深入釋定見十方佛  
此ハ同聲注云  
此ハ同聲注云

同譬喻云

其中衆生悉是我子  
此ハ同聲注云  
此ハ同聲注云

傳歌の事

一是同聲注云

傳歌ハ同聲注云  
傳歌ハ同聲注云  
傳歌ハ同聲注云  
傳歌ハ同聲注云  
傳歌ハ同聲注云



秋

あふれと云ふは六鹿の存の中く一鹿の種なり  
判後成云ふはれどこれと種のはれたるも鹿乃存より  
てぞせしはれは鹿乃歌よりあつとていふと云ふ  
これもあつり鹿のうづつたれは傍歌よりいふと云ふ

一

光明寺持政家言合 寄延志

うらうらー衣ささくさむらよ人の心とてさるもこれ  
判定悪傍歌乃衣ささくさむらと云ふ  
一八雲は傍歌よと云ふ物を後入と云ふ一連言乃傍歌  
のささくささくささくささくささくささくささく  
もあつらふの歌よ好の物と云ふささくささくささく  
乃事物を引くささくささくささくささくささくささく  
てとあつらふささくささくささくささくささくささく  
あつらふの物いふささくささくささくささくささく  
よ傍歌よなれと云ふささくささくささくささくささく  
そのささくささくささくささくささくささく

片歌の事

片歌病とてさのやまひのひとけなり

一 毒歌字云 細川玄白下注 云片歌といふことハ物あり  
依方宗依云 川と流のささくささくささくささくささく  
物二と流のささくささくささくささくささくささく  
て駕とてささくささくささくささくささくささく

落歌の事

歌の事物と流のささくささくささくささくささく

かきささくささくささくささくささくささくささく  
るささくささくささくささくささくささくささく  
八雲所抄抄 依方宗依云 行に歌地と云ふことハ  
とて用也 傍歌ハ後孫等はよ御らふと流て用也野  
亭ハとてのさのやまひと云ふことハありふ家と云ふの歌  
なとて流さるその事れと云ひささくささくささくささく  
とハせはとてささくささくささくささくささくささく  
ささくささくささくささくささくささくささく

けりるく流れぬ歌の事

一身歌

細川玄白下注 云一身と云ふはかみなり

音ト  
実字のりす

おひくく... 歌の文字の多める中... 一公堂は... 可傳入... 實字之類大略

實字の似...

出

○寫出谷。紅葉出垣之類也

歌集

改

○寫出垣

淡拱吟

雅世

入

○吹雪入鹿。山丹入簾之類

百々

乃堅

○山丹入簾

歌集

道を後

未

○樹未深。電未深之類也

月

月

○電未深

五歌

祝意

かき...

○傷

秋夕傷心 千尋

作兼

見月傷光 秋夕傷心 千尋

作兼

○厭

被厭悲 中集

作兼

○到

野到到暮 千尋

作兼

○何

吹鐘何寺 赤集

清物

白くよまらひ 花やゆれそらうのそまらひ

作兼

○忘

忘早苗 白川七五

行表

忘別恋 中集

作兼

○送

帰厂送 中

長澤

送少部云 續後拾遺

作兼

○恥

花恥老 中

作兼

花恥老 中

作兼

○採

採 中

作兼

採 中

作兼

○晴 永心ゆくよせしとてあつらひのたふぬ乃がをこそあつひ  
晴天降下。五月雨情之歌 若法

○初 五月雨情 日 遠運院  
月のこ氣清くもあつらひ五月雨のちぢれやへくも風は清く  
初花。初恋之歌 玉紫 初花を改定

○早 草花早 法集 後柏重院  
早。草花早之歌 雑種  
大く乃花のさうわも初もあつし近乃一本は心もあつらひ

○似 似。初花似丹之歌 新古今 白月院  
似。初花似丹之歌 雑種  
初恋 雑種  
初花 雑種

○白 白。初花乃び 法集 後柏重院  
白。初花乃び之歌 雑種  
初花 雑種

○遠 遠。初花乃び 法集 後柏重院  
遠。初花乃び之歌 雑種  
初花 雑種

○隔 隔。初花乃び 法集 後柏重院  
隔。初花乃び之歌 雑種  
初花 雑種

○初 初。初花乃び 法集 後柏重院  
初。初花乃び之歌 雑種  
初花 雑種

○似 似。初花乃び 法集 後柏重院  
似。初花乃び之歌 雑種  
初花 雑種

○白 白。初花乃び 法集 後柏重院  
白。初花乃び之歌 雑種  
初花 雑種

○遠 遠。初花乃び 法集 後柏重院  
遠。初花乃び之歌 雑種  
初花 雑種

○ 扇 ○ 杉香笛社。水笛水聲之歌

杉香笛社

新古今

有歌

水笛水聲

新古今

中納言

○ 解 ○ 氷解之歌

氷解

新

雅歌

○ 共 ○ 共偽恋之歌

共偽恋

百首

道兼

○ 近 ○ 近萩。近恋之歌

近萩

白川及七百首

為氏

近恋 後物多後

○ 契 ○ 契恋之歌

契恋

新後撰

法中定家

○ 散 ○ 雲散凡之歌

雲散凡

内集

後柏原院

○ 誓 ○ 誓恋之歌

誓恋

千歌

修理大夫

○ 兩 ○ 鹿声兩方。兩方無之歌

鹿声兩方

新集

雅歌

兩方恋 新古今

○ 遲 ○ 春月遅之歌

春月遅

新古今

長



春日遊

夜集

道玄院

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや  
○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

○送 花下送日 日 定意  
わらわら春風乃そよよと吹く日とて思ふにや

花下送日

日

定意

外翁集 千秋

仙翁集

○ 浪  
外翁乃翁之好  
○ 浪。浪垂之類  
後集

浪垂 後集

○ 悒  
○ 悒。悒谷之類  
後集

悒 後集

○ 兼  
○ 兼。兼厥之類  
後集

兼 後集

○ 難  
○ 難。難難之類  
後集

難 後集

冬 難

日 日

○ 依  
○ 依。依依之類  
後集

依 後集

○ 存  
○ 存。存存之類  
後集

存 後集

○ 存  
○ 存。存存之類  
後集

存 後集

○ 難  
○ 難。難難之類  
後集

難 後集

○ 難  
○ 難。難難之類  
後集

難 後集

○ 討 ○ 討水侍月之歌

討水侍月 今虫

巻後

交乃初の月侍夜のてとさひよさりの志れ来むものつ

○ 適 ○ 適逢虫之歌

適逢虫 歌

小侍夜

それこそさそくをせしはさかなるるさひつかなれしを

○ 音 ○ 柳葉系

柳葉系

虫集

後拍子夜

後より夜に衣をぬきうらみかひくあややさの心を

○ 虫 ○ 虫思虫之歌

虫思虫

虫集

遠を夜

ささくやさしれ物てはさそと同一の志の下の心

○ 遠 ○ 遠物思之歌

遠物思

後古今

虫集

歌とまのりよもあへひひてきり数なりぬいさそあつこと

○ 察 ○ 察思思虫之歌

察思思虫

虫思思合

後人思

白木の海さおき乃い多れうこれかあよくし移しむ

○ 添 ○ 添添思色

添添思色

虫集

後拍子夜

去乃さそき乃い多れうこれかあよくし移しむ

○ 連 ○ 連峯鹿序一連雲之歌

連峯鹿

虫

虫

つらねの雲のさそきあふんさそき鹿乃いものものよ

序一連雲

虫集

虫集

うささの雲かきつとてを思ひさそきあふんさそき

告 ○ 告告春之歌

告告春

虫集

後夜

告告とて思ひさそきあふんさそきあふんさそき

○ 積 ○ 積雪之歌

積雪

虫集

後夜

積雪とて思ひさそきあふんさそきあふんさそき

秋夜長

秋夜長

秋夜長

○ 摘

去はさうらふもほほかすんか秋の夜一とされよふりし香

摘

千々

千々

○ 常

あかしく種もさるれとて入てくれおとよののりおる

常

千々

白川

○ 中

あーよりあそくこれあの下もたも日あつりりおる

中

秋夜長

秋夜長

他の中水

秋夜長

秋夜長

○ 長

はらとらふも光乃吹きてこれらあまのこやうさうさ

秋夜長

秋夜長

秋夜長

○ 馴

袖受しや後もくさ秋のよの老あつ人そ先おれり

馴

秋夜長

秋夜長

○ 秋

あつとらんもあつと秋夕よ人待はゆりうひさあ

秋

秋夜長

秋夜長

○ 慰

いふれあ木乃のあもれ秋のこれとこれとらん

慰

秋夜長

秋夜長

○ 鹿

年くの鹿のさうれやうらに後あ光乃ととらん

鹿

秋夜長

秋夜長

○ 歌

あつとらんもあつと秋夕よ人待はゆりうひさあ

歌

秋夜長

秋夜長

○空

空しくゆく令ふかりやせん空しくしと

侍部空明之歌

西行

○群

雪滿群心之歌

雪滿群心

新撰今

おまゆ之歌

○結

柳結落葉

柳結落葉

乳

花室大友

○恨

恨恋之歌

恨恋

後撰撰

歌物

○内

年内之歌

年内之歌

新勅撰

後醍醐院

○浮

あつた乃舟もらうて

柳浮水

山集

後醍醐院

○写

写

写

歌集

歌家

○枝

枝

柳枝神

日

道を渡

○埋

埋

落花埋路

千尋

作兼

○栽

栽

栽

後撰抄

定家

○疎 ○疎之類  
少くもつる方也。そは疎格なる人々。其の言はれは疎なる也。

疎集 此阿

○失 ○失返す之類  
かゝるよりいふゆゑ物うかうく入帳とて不疑なる也。

失返す之類 日 粧設

○疑 ○疑惡之類  
念くてもなほうらみおれど又うらみひて又疑くれ

疑惡 新後税 丙定

○病 ○病少之類  
うねりたり人の心を病むる也。これこそ病なり。

病水 徳松遠 秋原信作

○動 ○凡動野花之類  
さしやうのいふ事々しくなれば其の芳名のみひびくべし。

凡動野花 秋集 信成

○後 ○後乃之類  
まゝよへを言ふ所の紙筋もあつた程の凡そささる

後乃 彰吾今 官内々

○砂 ○砂雷之類  
なとれまゝん物うひし無乃れれはさるる也。此里人

砂雷 換拾遺 五宮百七十一系

○際 ○柳際池水之類  
去かれれば風のゆるい波よさあつて波うその為あり

柳際池水 此 通宗

○岸 ○物岸内之類  
青柳のつらつらとて池の玉岸と云ひたる也

岸 千そ 昨兼

○延 ○史延延之類  
うらむ心のかたき事と云ふよりいふりといふりもあつた也

史延延 秋 藤季川

思 思慮之類  
思慮之類  
思慮之類

〇 羨 雲雀落之類  
雲雀落  
集  
羨  
羨  
羨

〇 驚 秋葉之類  
秋葉  
集  
驚  
驚  
驚

秋葉 秋葉之類  
秋葉  
集  
秋葉  
秋葉  
秋葉

〇 多 早苗多之類  
早苗多  
集  
多  
多  
多

早苗多 早苗多之類  
早苗多  
集  
早苗多  
早苗多  
早苗多

〇 情 情氣之類  
情  
集  
情  
情  
情

情 情氣之類  
情  
集  
情  
情  
情

〇 重 草花露重之類  
草花露重  
集  
重  
重  
重

草花露重 草花露重之類  
草花露重  
集  
草花露重  
草花露重  
草花露重

〇 折 折花之類  
折花  
集  
折  
折  
折

折花 折花之類  
折花  
集  
折花  
折花  
折花

〇 悔 悔心之類  
悔心  
集  
悔  
悔  
悔

悔心 悔心之類  
悔心  
集  
悔心  
悔心  
悔心

〇 彫 花彫盛之類  
花彫盛  
集  
彫  
彫  
彫

花彫盛 花彫盛之類  
花彫盛  
集  
花彫盛  
花彫盛  
花彫盛

〇 易 花易散之類  
花易散  
集  
易  
易  
易

花易散 花易散之類  
花易散  
集  
花易散  
花易散  
花易散

新刊

如法三卷

卷八

○破  
凡破唯夢  
夜集  
修善社

○侍  
侍花  
夜集  
式子内親王

○每  
每和精川  
夜集  
道成院

○語  
語  
夜集  
道成院

○文  
文  
夜集  
道成院

○係  
係  
夜集  
道成院

○真  
真  
夜集  
道成院

○係  
係  
夜集  
道成院

○文  
文  
夜集  
道成院

○語  
語  
夜集  
道成院

○係  
係  
夜集  
道成院

夜集  
修善社

夜集  
式子内親王

夜集  
道成院

夜集  
道成院

夜集  
道成院

稀  
○常稀  
○稀屯之類  
日  
日

稀  
稀  
源兼氏

稀  
稀  
源兼氏

○文  
文  
為尹

文  
文  
為尹

○係  
係  
稀名院

係  
係  
稀名院

○真  
真  
宗通

真  
真  
宗通

○語  
語  
夜集  
道成院

語  
語  
夜集  
道成院

○係  
係  
夜集  
道成院

係  
係  
夜集  
道成院



松竹梅 松竹梅 松竹梅  
松竹梅 松竹梅 松竹梅  
松竹梅 松竹梅 松竹梅  
松竹梅 松竹梅 松竹梅

○ 松 松竹梅之類  
松竹梅之類  
松竹梅之類  
松竹梅之類

○ 古 古柳之類  
古柳之類  
古柳之類  
古柳之類

○ 舊 舊柳之類  
舊柳之類  
舊柳之類  
舊柳之類

○ 如 如柳之類  
如柳之類  
如柳之類  
如柳之類

○ 柳 柳之類  
柳之類  
柳之類  
柳之類

○ 泥 泥之類  
泥之類  
泥之類  
泥之類

○ 龍 龍之類  
龍之類  
龍之類  
龍之類

○ 紙 紙之類  
紙之類  
紙之類  
紙之類

○ 得 得之類  
得之類  
得之類  
得之類

○ 擇 擇之類  
擇之類  
擇之類  
擇之類

○ 柳 柳之類  
柳之類  
柳之類  
柳之類

○ 泥 泥之類  
泥之類  
泥之類  
泥之類

○ 龍 龍之類  
龍之類  
龍之類  
龍之類

○ 紙 紙之類  
紙之類  
紙之類  
紙之類

○ 得 得之類  
得之類  
得之類  
得之類

○ 擇 擇之類  
擇之類  
擇之類  
擇之類

照 ○ 照之類  
月照草房 千秋  
友未親盛

响 ○ 响之類  
响月 伍集  
後拍字後

逢 ○ 逢之類  
逢燕 新修拾遺  
法常長孫

浼 ○ 浼之類  
浼浼 西集  
後拍字後

遍 ○ 遍之類  
子祝遍 新修拾遺  
後拍字後

頤 ○ 頤之類  
頤燕 新修拾遺  
孫名院

空 ○ 空之類  
空月 日  
名華

盛 ○ 盛之類  
盛苑 永法信旨  
名華

夾 ○ 夾之類  
瞿麦夾水 乳  
孫名院

光 ○ 光之類  
光光 伍集  
孫名院

光 ○ 光之類  
光光 伍集  
孫名院

新撰

新撰

千

新集

○ 夕  
夕  
夕  
夕

夕

新撰

有象

○ 消  
消  
消  
消

消

新集

正徹

○ 廻  
廻  
廻  
廻

廻

日

新集

○ 見  
見  
見  
見

見

新集

今

○ 滋  
滋  
滋  
滋

滋

○ 短  
短  
短  
短

短

短

新集

○ 徑  
徑  
徑  
徑

徑

徑

新集

○ 静  
静  
静  
静

静

新集

今

○ 佐  
佐  
佐  
佐

佐

新集

今

○ 志  
志  
志  
志

志

今

新古今

古今集

○知 我悪六枝乃下葉よりくをれぬともく久乃をよめてあや  
○序下葉之類

帰一知妻 玉紫

淡香

○涯 古よ今うたれんくくをれぬをよめられたる乃うか  
○夏草流之類

夏草流 友集

通を淡

○頻 ありまの麻もよりいあんとり乃ちよ葉よめ  
○都公頻之類

都公頻 千景

雅永

○映 青山乃ありりくをれぬをよめられたる乃く  
○系映日之類

系映日 千景

雅永

久 志れ三枝下葉となりあやり乃目よてくをれぬ  
○久患之類

久患

淡香

太上天官

○独 志ひつゝもくをれぬをよめられたる乃く  
○独守時雨之類

独守時雨 種古今

酒太青丸大食

○不 神もくをれぬをよめられたる乃く  
○不逢意之類

不逢意 朝古今

友平基備

○欲 乃とれくは枝ぬ人乃目よてくをれぬ  
○欲別恋之類

欲別恋 朝千枝

淡香

○る 夕立く  
○夕立く之類

夕立く 以集

後拍子後

透 日影を又家乃ぬ草乃上のをものくをれぬ  
○夕立遠藤之類

形ありてはふも乃其の類に類するなり  
たひも乃其の類に類するなり  
てもうも又ハ二も乃其の類に類するなり  
る文字とハハ類に類するなり

厩字乃串

○外 野外野外之類 戶外戶外之類 天外天外之類  
厩字といふハ文字ハ出たなり

○急 海急海急之類 水急水急之類 池急池急之類 川急川急之類  
右急之字ありて其の類に類するなり

○上 河上河上之類 池上池上之類 江上江上之類  
右急之字ありて其の類に類するなり

○天 曉天曉天之類  
右急之字ありて其の類に類するなり

右曉天といふハ天の字ハ皆厩字ニ其外天といふハ  
ハ実字ニ其の類に類するなり

○文 曉文曉文之類 深文深文之類  
右曉文ハ文といふハ其の類に類するなり

○場 雲場雲場之類 草場草場之類  
右雲場ハ雲草場ハ草といふハ其の類に類するなり

己上実字厩字ともハ其の類に類するなり  
實字のくハハ其の類に類するなり

昭和五年三月 飯島書店にて求む 古価五千円

村井 順

